山口大学に対する知的財産情報教育支援2006

Support of Intellectual Property Information Education for Yamaguchi University 2006

岡本和彦^{1*}, 出口昌信¹
OKAMOTO Kazuhiko, DEGUCHI Masanobu

*1 宇部興産(株)研究開発本部知的財産部

Intellectual Property Department, Corporate Research & Development, Ube Industries, Ltd.

〒755-8633 山口県宇部市大字小串1 9 7 8 - 9 6

E-mail: {27124u, 29740u}@ube-ind.co.jp

山口大学と宇部興産(株)の包括連携協定締結に基づき、山口大学に対する知的財産情報教育支援を2004年度より継続実施している。この知的財産情報教育支援活動の目的は、山口大学における、エンドユーザー向け特許情報検索システム(NRIサイバーパテントデスク)及び特許庁IPDLの活用推進、山口大学における、「特許情報検索インストラクター」の育成等にある。

以前は、1回2時間の講義及び実習を3回で計6時間の教育であり、その内容は既に報告している。2006年度は受講生の実習時間増加希望に対応し、1回の教育時間を3時間に増やして、計9時間の教育を行った。本報告ではこの内容及び受講生のアンケート結果について報告する。

We have supported training in intellectual property information education for Yamaguchi University since April in 2004 based on the framework agreement between the university and Ube Industries Ltd. The aims of the support program are to promote uses of end-user oriented patent information retrieval system (NRI Cyber Patent Desk) and Japan Patent Office IPDL, and to train students in instructors for patent information search in the university.

The course hours were 6 hours (3 times of 2 hours per session) in 2004 and 2005. The content of the course including lecture and practice in those two years was already reported. We increased course hours as requested by students to 9 hours (3 times of 3 hours per session) in 2006. Details of the course in 2006 and results of student questionnaire are reported in this article.

キーワード: 山口大学, 知的財産情報教育, 特許情報検索インストラクター

key word: Yamaguchi University, Intellectual property information education,
Patent information retrieval instructor

1 はじめに

企業、大学等におけるエンドユーザー向け情報検索教育は以前より行われている(例え

ば[1], [2], [5])。宇部興産(株)においても、情報検索教育を継続実施してきた([3], [4], [6], [7], [8], [9], [11], [12], [14], [15], [16], [19], [20])。山口大学と宇部興産(株)の包括連携協定締

結に基づき、山口大学及び山口TLOに対する知的財産情報教育支援を2004年度より継続実施している。この知的財産情報教育支援活動の目的は、山口大学及び山口TLOにおける、エンドユーザー向け特許情報検索システム（NRIサイバーパテントデスク）及び特許庁IPDLの活用推進、山口大学における、「特許情報検索インストラクター」の育成等にある。

以前は、1回2時間の講義及び実習を3回で計6時間の教育であり、その内容は[10], [13], [17], [18]で既に報告している。

2006年度からは受講生の実習時間増加希望に対応し、1回の教育時間を3時間に増やして、1シリーズにおいて計9時間の教育を行った。また、2006年度は山口大学宇部地区（宇部市）、山口大学本部（山口市）で前期、後期に各2シリーズずつ、計4シリーズの教育を実施し、その一部については[21]で既に報告した。本報告ではこの内容及び受講生のアンケート結果についてその詳細を報告する。

2 教育内容

特許庁IPDL、NRIサイバーパテントデスクを利用しての情報検索教育に加えて、以下の教育を2004年度より継続している。

- (1) 知的財産情報入門（特許情報の種類、特許公報の読み方等の基礎知識）
- (2) 研究開発における特許調査の考え方（知的財産戦略）
- (3) 最終日の理解度テスト；実技試験

最初の1時間を講義にあて、残りの2時間を情報検索実習とした。実習においては、山口大学特許情報インストラクターの大学院生等が受講生の理解をサポートした。

2.1 第1回目（第1日目）

2.1.1 知的財産情報入門（特許情報の種類、特許公報の読み方等の基

礎知識）

①情報学の意義（情報学と情報工学の差異など）、②情報の種類（1次情報、2次情報、3次情報）、③上記各段階の情報に相当する知的財産情報の解説、④知的財産情報の種類

特許公報には5種類あることを説明し、公開公報、公表公報、再公表公報、特許公報、公告公報の見方、読み方等を説明した。同時に、これら5種類の特許公報が発生する過程を理解してもらうために、⑤日本特許制度、国際特許制度、特にPCT出願によって発生する公表公報、再公表公報に関連づけて説明した。

さらに、特許公報を読むうえで是非とも必要な知識である、IPC（国際特許分類）、FI（特許庁ファイルインデックス）、FT（Fターム）などについても、具体的事例、サンプルを利用しながら解説した。これらの、知的財産情報の基礎知識の部分は、日常の知的財産部の業務においても、研究者・技術者から一番質問が多い個所である。

2.1.2 特許番号等からの検索方法、特許公報入手方法

前項で、特許情報の種類、特許公報の種類を解説してあることから、各特許公報番号から、実際の特許公報を検索する方法を教育した。研究者・技術者が特許公報の入手を頼んでくる場合、出願番号、公開番号、特許番号の区別がつかないまま依頼をしてくる事例を多く経験していることからである。番号検索を教えた後は、特許公報の入手方法も合わせて教育した。

2.1.3 NRIサイバーパテントデスク・概念検索の方法

NRIサイバーパテントデスクの特徴として「概念検索」機能がある。この概念検索とは、検索時に指定された文章と、特許公報の要約もしくは特許請求の範囲の請求項を比較し、文章に記載された内容、意味を比較し、類似性、関連度合いの高い公報から順番にランキングし、表示する検索システムである（以上NRIサイバーパテントデスクHPより引用）。

上記概念検索システムは、特許情報検索システムの知識、情報検索の知識、国際特許分類（I

PC)などの、特許情報特有のインデックス、検索タームの知識等を知らなくても、特許情報検索を行うことが可能である。

知的財産情報の予備知識の無い研究者・技術者であっても気楽に検索することができる。研究開発活動、実験の合間に、アイデア、イメージが湧いたときに、そのアイデア、イメージを検索画面から、数行程度の文章にして入力することで、特許情報検索をすることが可能である。

教育においては、1回目の教育の、後半の2時間を、概念検索の説明及び、端末実習にあて、実際に概念検索実習を体験してもらった。検索課題は任意の想定課題を与えることもしたが、できるかぎり、①受講生が現在起業化を考えている研究テーマ、②卒業論文、修士論文等の研究テーマでの検索を試みってもらうこととした。

必要に応じて受講生を直接に指名し、講師席のパソコンを使って実際に検索を実施してもらうこともした。

また、山口大学知的財産本部スタッフからの指摘事項として、概念検索のみで、安易にサーチレポートを作成する特許情報インストラクターが山口大学内に出始めていることから、概念検索だけに頼らないでサーチレポートを作成するよう強く指導した。

2.2 第2回目(第2日目)

2.2.1 研究開発における特許調査の考え方(知的財産戦略)

前半の1時間はPPTを利用した講義を行った。この教材は、本来、宇部興産(株)研究開発本部の研究所のグループリーダークラスを対象とした社内教育用に作成した教材を、日本知的財産協会・研修会・入門コース(関西)・「知的財産情報」用に改訂し、さらに本教育用に改訂したものである。研究開発における知的財産戦略の考え方を理解してもらうことを目的とした内容となっている。具体的には以下の内容を盛り込んで作成された教材である。

- ①研究開発における知的財産戦略の考え方、
- ②研究開発の各ステージに対応した特許調査及びその考え方、

- ③特許審査における、先行技術調査の方法、
- ④研究開発において、特許権利侵害を起こさないための注意事項等である。

また、是非とも強調しておきたい点として、「研究のための調査(特許性の調査)」と、「権利侵害のための調査」とは、調査のための考え方、方法が全く別である、ということがある。

企業における事例で言えば、前者の「研究のための調査」はエンドユーザーである研究者・技術者(情報検索、調査のアマチュア)がやってもよいが、後者の「権利侵害のための調査」は必ず、知的財産部に相談し、知的財産部の出願担当者、知的財産情報担当者(インフォプロ:情報専門職)、と発明者(研究者・技術者)の三位一体で行うことが必要不可欠である。講義においても、今後受講者が企業に就職した場合を考え、これらの点を強調しておいた。

2.2.2 知的財産関連訴訟の調べ方

知的財産関連訴訟の調べ方についても、簡単に紹介した。具体的には、最高裁判所HPより、知的財産判決速報を、言葉から簡単に検索する方法を例示した。

実際の判決文を見るのは初めてという受講生も多く、関心は高かった。ここで、「判例」と「裁判例」の定義、相違点、言葉の使い分けについても説明しておいた。

2.2.3 NRIサイバーパテントデスク複合検索

1回目の教育では、NRIサイバーパテントデスクの概念検索機能を教育したが、2回目では、知的財産情報担当者であるインフォプロ(情報専門職)が行う特許情報検索に近い内容を教育した。NRIサイバーパテントデスクの複合検索画面を利用し、各検索タームを利用した検索、検索内容の掛け合わせなどについて、実例を見せながら、各受講者が端末実習をする形式を取った。ここで教育した検索タームとは、以下のものである。

キーワード;検索対象範囲を特許明細書全文にする場合と、特許請求の範囲に限定する場合

の2種類の使い分けについて、実例を挙げて説明した。また、NR Iサイバーパテントデスクの場合、キーワード、言葉による検索は完全一致検索である。言語表現が違えば、同義語はヒットしないことも明言した。PATOLIS-IVやJDreamIIのような情報検索システムの場合、シソーラスが完備され、統制語が存在するが、NR Iサイバーパテントデスクの場合はこれらとは異なる特許情報検索システムであることを理解してもらうよう注力した。

他に、IPC（国際特許分類）、FI（特許庁ファイルインデックス）、FT（Fターム）、出願人・権利者等の検索タームの活用方法についても教育した。

出願人・権利者の場合、完全一致検索ではなく、前方一致検索で行うことを基本として教えた。これは検索漏れを少なくするためである。また、企業同士の合併があった場合は、合併前の企業名＋合併後の企業名を全て入力し、合算する必要があることも説明した。さらに、公表公報などでみられるように、外国企業の場合はカタカナ表記になるが、日本国内の代理人の翻訳・表記の仕方でヴァリエーションが発生していることを説明した。可能な限りカタカナ表記のヴァリエーションを把握し、入力し、合算することを徹底するよう、強調して説明した。

発明者からの検索方法も説明した。留意事項としては、ベンチャー企業のような場合、企業名での出願ではなく、社長が個人名で出願している場合があることも説明しておいた。

2.2.4 IPDLの効果的な利用方法 （どこを使えば便利か？）

NR Iサイバーパテントデスクだけではなく、特許庁IPDLの利用方法も解説した。NR Iサイバーパテントデスクに比較し、特許庁IPDLはキーワードからの検索には不便である。しかし、IPC（国際特許分類）、FI（特許庁ファイルインデックス）、FT（Fターム）からの検索には有効である。また、パテントマップガイダンスを利用すれば、上記IPC、FI、FTの内容を調べたい場合には非常に有効である。実習では、NR Iサイバーパテ

ントデスクとは別にブラウザを立ち上げ、特許庁IPDLのパテントマップガイダンス画面からIPC、FI、FTなどの各検索タームを解析しながら、NR Iサイバーパテントデスクを利用する方法を説明し、実施させた。

さらに、IPDLの初心者検索画面での、キーワードからの特許・実用新案検索、具体的商品名、役務名からの簡易商標検索も、それらの利用方法を解説した。

尚、2007年度のシリーズでは、山口大学が独自に開発した特許情報検索システムYUPASSの紹介とデモも行った。

2.2.5 その他、有効と思われる 関連サイトの紹介

さらにレベルアップしたい受講生のために、情報検索、知的財産関係の資格試験関連サイトを紹介した。具体的には以下の試験の関連サイトである。

- ①弁理士試験（特許庁HP）、
- ②知的財産検定（2008年度より、国家検定の知的財産管理技能検定に移行、日本知的財産教育協会HP）、
- ③ビジネス著作権検定
（ビジネス著作権検定専用HP）、
- ④情報検索基礎能力試験、情報検索応用能力試験2級（情報科学技術協会HP）

2.3 第3回目（第3日目）

2.3.1 情報検索実習

前半の1時間は、第1日目、第2日目で教育した内容を基に、仮想事例、検索課題を示し、各受講者が端末実習として、情報検索実習を行った。第1回目の実習の時から見られた傾向であるが、情報検索実習を実際にやらせてみると、受講生の反応はさまざまであった。時間にゆとりがあり、いろいろな角度から検索を試みる者から、やり方がわからず立ち往生している者まで大きな個人差があった。

2.3.2 最終日の理解度テスト （実技試験）

後半の1時間で、理解度を見るために情報検索の実技試験を行った。内容は、検索課題を

10 問与え, I P D L, N R I サイバーパテントデスクを利用しての情報検索実技試験を行った. 検索課題 10 問の解答時間は 1 時間である. 解答にあたっては, 検索ツール, 検索式, 検索結果を記載させた.

この方法により, 特許情報検索における, 各受講者の取り組み方, 考え方を見ることができた.

以下に検索課題 10 問を示す.

ー理解度テストでの課題ー

以下の検索課題を順番に解答してください.

解答にあたっては, N R I サイバーパテントデスクまたは I P D L を利用し, 検索で利用した,

- ①キーワード
 - ② I P C (国際特許分類)
 - ③ F I (特許庁ファイルインデクス)
 - ④ F T (F ターム)
 - ⑤それらを組み合わせた検索式
 - ⑥ヒット件数
- を記載してください.

課題 1: バイオエタノール又は
バイオディーゼル

課題 2: 形状記憶合金を利用した眼鏡

課題 3: ハイブリッド自動車

課題 4: 地上デジタル放送

課題 5: 光触媒技術

課題 6: ナノテクノロジーを利用した
金属微粒子

課題 7: 白色 L E D を利用した内視鏡

課題 8: P D P

(プラズマディスプレイパネル)

課題 9: 若年性アルツハイマー病の診断薬
及び治療薬

課題 10: 日亜化学の職務発明訴訟の裁判例
(最高裁判所 H P を利用してください)

ボーナス Q 1: 山口大学が出願した特許

ボーナス Q 2: あなたは特許情報検索インストラクターになることを希望しますか?

1 時間で 10 問の検索課題は受験する側にと

って時間が無く、負荷のきついものである. しかし, 単位時間あたりの処理能力の速さも特許情報検索インストラクターに要求される能力の 1 つであることから, 実技試験においては, あえて 1 時間で 10 問の検索課題とした.

採点においては, 受講者は特許情報検索のプロではないので, 検索結果が正しいかどうか, という点よりも, 柔軟に, 多角的に情報検索の切り口を考えることができるかどうか, という点を評価・採点のポイントにした.

3. 受講生の反応(アンケート結果)

教育終了後, 受講生に対してアンケート調査を行った. その結果について述べる.

3. 1 アンケート集計結果

(図 1) ~ (図 2) 及び (表 1) ~ (表 2) にアンケート集計結果を示す. 2006 年度は, 山口大学宇部地区 (工学部, 宇部市) と山口大学本部 (山口市) で前期, 後期各 2 シリーズずつ, 合計 4 シリーズの知的財産情報教育を実施したので, 各シリーズのアンケート結果を表示した.

開催した地区, 時期により受講生数の差が大きく, それが受講生の理解度, 情報検索実習のしやすさにも影響したことから, アンケート結果もこれらの事情を反映したものとなっている.

例えば, (表 1-1) から (表 1-4) の「知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見」を比較した場合, 地区, 所属する学部の違いもあるが, それらに加えて受講者数の違いも大きく, 宇部地区前期: 73 名, 山口地区前期: 20 名, 宇部地区後期: 8 名, 山口地区後期: 15 名である.

このことから, 「知的財産情報教育に関する意見総合的感想, 意見」においても, 「有益であり, 今後の実務に生かすことができる」と回答した割合が, 宇部地区前期: 52%, 山口地区前期: 65%, 宇部地区後期: 75%, 山口地区後期: 33%, と変動幅が大きい結果とな

っている。

また、宇部地区前期の場合、受講生が73名と多すぎた感があり、(図2-1-2)の、「各教育の内容、説明に対して理解できない理由」において、マイク講義であるにもかかわらず、「説明の声が小さい」という回答が見られる。

さらに、端末実習においても、多数の人数が同時に同じ情報検索操作をするために、反応が非常に遅くなり、実習に支障をきたすという状況も発生していた。

3.2 最も理解しにくかった部分

アンケート集計結果に加えて、受講生のアンケート用紙への記入内容を見る限り、受講生が理解し難かったところとしては、これまでと同様に、

- ①特許制度（日本，外国）
- ②特許関連専門用語
- ③IPC（国際特許分類），FT（Fターム）等の特許検索ターム

の3点が主な内容であった。

これは、特許を含めて知的財産の実務を日常において経験したことがないという事情が影響しているものと思われる。

4. 結論

4.1 アンケート結果に対する考察

3.1でも述べたが、受講生の理解が困難であった個所としては以下の内容になる。

- ①特許制度（日本，外国）
- ②特許関連専門用語
- ③IPC（国際特許分類），FT（Fターム）等の検索ターム

単なる情報検索教育だけではなく、知的財産制度を平行して教育することが必要と解される。知的財産情報のプロを育成する場合、知的財産制度の理解が必要不可欠である。

宇部興産㈱において、エンドユーザー教育を実施した際、情報検索アドバイザーを兼任している研究者側からの意見として、特許教育、特

許明細書作成教育の定期的な開催の要望があった。その理由として、特許明細書作成のポイントを理解していなければ、特許調査においても、そのポイントが理解できない。目的にあった確な特許調査ができないため、ということがあげられた。

4.2 山口大学における特許情報検索インストラクター

山口大学における知的財産情報教育支援の主目的は、特許情報検索インストラクターの継続的育成である。特許情報検索インストラクターに選任された学部生、大学院生も一定期間の後卒業、修了し、山口大学を去っていくためである。

2006年度は最終日の理解度テスト、本人の希望をもとに前期は38名、後期は15名の計53名が選任され、山口大学知的財産本部の認定、登録を受けた。2006年度後期の時点で、それまでの認定者と合わせた特許情報検索インストラクターは総勢70名である。尚、2007年度の段階では、特許情報検索インストラクターは総勢91名に増加しているそうである。

この他に、「特許マップ作成講習会」、「特許明細書作成講習会」、「特許図面作成講習会」も2005年度より開催され、それぞれの実技試験の後、「特許マップ作成インストラクター」、「特許明細書作成サポーター」、「特許図面作成イラストレーター」が選抜、登録され、活動している。

4.3 山口大学における知的財産情報教育支援の付随効果

最近の傾向として、特許情報検索インストラクターを務めた者が、企業の知的財産部に特許情報・調査担当者として就職する事例が増えている。また、情報検索やデータベースに興味を持ち、大規模特許情報データベースを作成している企業に就職した者もいると聞いている。

表 1-1 知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見(宇部地区, 前期)(N=73)

知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見	件数	割合(%)
有益であり, 今後の実務に生かす事ができると思う	38	52
まずまずであったが, 実務に生かせるかどうかはわからない	32	44
受講する価値はほとんど無かった	2	3
その他	1	1
(合計)	73	100

表 1-2 知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見(山口地区, 前期)(N=20)

知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見	件数	割合(%)
有益であり, 今後の実務に生かす事ができると思う	13	65
まずまずであったが, 実務に生かせるかどうかはわからない	7	35
受講する価値はほとんど無かった	0	0
その他	0	0
(合計)	20	100

表 1-3 知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見(宇部地区, 後期)(N=8)

知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見	件数	割合(%)
有益であり, 今後の実務に生かす事ができると思う	6	75
まずまずであったが, 実務に生かせるかどうかはわからない	1	13
受講する価値はほとんど無かった	0	0
その他	1	13
(合計)	8	100

表 1-4 知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見(山口地区, 後期)(N=15)

知的財産情報教育に関する総合的感想, 意見	件数	割合(%)
有益であり, 今後の実務に生かす事ができると思う	5	33
まずまずであったが, 実務に生かせるかどうかはわからない	10	67
受講する価値はほとんど無かった	0	0
その他	0	0
(合計)	15	100

図 1-1 詳細な説明が聞きたい項目 (宇部地区, 前期)

図 1-2 詳細な説明が聞きたい項目 (山口地区, 前期)

図 1-3 詳細な説明が聞きたい項目 (宇部地区, 後期)

図 1-4 詳細な説明が聞きたい項目 (山口地区, 後期)

表2-1 実習時間, 実習内容, 実習中の指導内容に対する感想(宇部地区, 前期)

項目	感想			回答件数
実習時間	長い	適当	短い	
	19 件(26%)	34 件(47%)	19 件(26%)	72 件
実習内容	難しい	適当	易しい	
	22 件(31%)	47 件(65%)	3 件(4%)	72 件
実習中の指導内容	良い	適当	悪い	
	12 件(17%)	51 件(72%)	8 件(11%)	71 件

表2-2 実習時間, 実習内容, 実習中の指導内容に対する感想(山口地区, 前期)

項目	感想			回答件数
実習時間	長い	適当	短い	
	4 件(20%)	8 件(40%)	8 件(40%)	20 件
実習内容	難しい	適当	易しい	
	8 件(40%)	12 件(60%)	0 件(0%)	20 件
実習中の指導内容	良い	適当	悪い	
	3 件(15%)	15 件(75%)	2 件(10%)	20 件

表2-3 実習時間, 実習内容, 実習中の指導内容に対する感想(宇部地区, 後期)

項目	感想			回答件数
実習時間	長い	適当	短い	
	0 件(0%)	4 件(57%)	3 件(43%)	7 件
実習内容	難しい	適当	易しい	
	2 件(29%)	5 件(71%)	0 件(0%)	7 件
実習中の指導内容	良い	適当	悪い	
	2 件(29%)	5 件(71%)	0 件(0%)	7 件

表2-4 実習時間, 実習内容, 実習中の指導内容に対する感想(山口地区, 後期)

項目	感想			回答件数
実習時間	長い	適当	短い	
	2 件(14%)	6 件(43%)	6 件(43%)	14 件
実習内容	難しい	適当	易しい	
	5 件(36%)	9 件(64%)	0 件(0%)	14 件
実習中の指導内容	良い	適当	悪い	
	3 件(21%)	10 件(71%)	1 件(7%)	14 件

表3-1-1 各教育の内容、説明に対する理解度(宇部地区, 前期)

項目	良く理解できた	一部理解できなかった	全く理解できなかった	回答件数
情報について	39%	57%	4%	74 件
特許制度	31%	69%	0%	72 件
特許公報	21%	69%	11%	73 件
特許分類	22%	69%	10%	73 件
NRIサイバーパテント デスク概要	50%	45%	5%	74 件

表3-1-2 各教育の内容、説明に対して理解できない理由(宇部地区, 前期)

項目	内容が難しすぎる	具体的事例が少ない	特許専門用語が多い	内容が担当分野と異なる	説明のスピードが速い	説明の声小さい	その他	回答件数
情報について	16%	12%	19%	2%	37%	5%	9%	43 件
特許制度	21%	9%	30%	0%	25%	5%	11%	57 件
特許公報	16%	10%	33%	2%	24%	3%	12%	58 件
特許分類	17%	4%	31%	2%	27%	3%	10%	59 件
NRI サイバー パテントデ スク 概要	19%	5%	16%	2%	40%	5%	14%	43 件

表3-2-1 各教育の内容、説明に対する理解度(山口地区, 前期)

項目	良く理解できた	一部理解できなかった	全く理解できなかった	回答件数
情報について	45%	55%	0%	20 件
特許制度	35%	50%	15%	20 件
特許公報	21%	53%	26%	19 件
特許分類	37%	53%	11%	19 件
NRIサイバーパテント デスク概要	53%	47%	0%	19 件

表3-2-2 各教育の内容, 説明に対して理解できない理由(山口地区, 前期)

項目	内容が 難し すぎる	具体的 事例が 少ない	特許専門 用語が多 い	内容が担 当分野と 異なる	説明の スピー ドが速 い	説明の 声 が小さい	その他	回答 件数
情報について	17%	0%	33%	0%	25%	0%	25%	12 件
特許制度	33%	0%	27%	0%	20%	0%	20%	15 件
特許公報	27%	5%	27%	5%	27%	0%	11%	19 件
特許分類	19%	6%	31%	0%	31%	0%	13%	16 件
NRI サイバー パテ ント デ スク 概 要	20%	0%	20%	0%	40%	0%	20%	15 件

表3-3-1 各教育の内容, 説明に対する理解度(宇部地区, 後期)

項目	良く理解できた	一部理解できな かった	全く理解できな かった	回答件数
情報について	75%	25%	0%	8 件
特許制度	50%	50%	0%	8 件
特許公報	50%	50%	0%	8 件
特許分類	63%	38%	0%	8 件
NRIサイバーパテ ント デ スク 概 要	88%	13%	0%	8 件

表3-3-2 各教育の内容, 説明に対して理解できない理由(宇部地区, 後期)

項目	内容が 難し すぎる	具体的 事例が 少ない	特許専門 用語が多 い	内容が担 当分野と 異なる	説明の スピー ドが速 い	説明の 声 が小さい	その他	回答 件数
情報について	0%	67%	0%	0%	33%	0%	0%	3 件
特許制度	50%	25%	25%	0%	0%	0%	0%	4 件
特許公報	0%	33%	67%	0%	0%	0%	0%	3 件
特許分類	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	2 件
NRI サイバー パテ ント デ スク 概 要	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	1 件

表3-4-1 各教育の内容, 説明に対する理解度(山口地区, 後期)

項目	良く理解できた	一部理解できなかった	全く理解できなかった	回答件数
情報について	53%	47%	0%	15 件
特許制度	20%	73%	7%	15 件
特許公報	33%	67%	0%	15 件
特許分類	37%	53%	11%	15 件
NRIサイバーパテント デスク概要	67%	33%	0%	15 件

表3-4-2 各教育の内容, 説明に対して理解できない理由(山口地区, 後期)

項目	内容が 難し すぎる	具体的 事例が 少ない	特許専門 用語が多 い	内容が担 当分野と 異なる	説明の スピー ドが速 い	説明の 声 が小さい	その他	回答 件数
情報について	17%	0%	50%	0%	17%	0%	17%	6 件
特許制度	37%	18%	9%	9%	27%	0%	0%	11 件
特許公報	42%	25%	8%	0%	25%	0%	0%	12 件
特許分類	40%	20%	10%	0%	30%	0%	0%	11 件
NRI サイバー パテント デスク 概要	38%	0%	25%	0%	38%	0%	0%	8 件

謝辞

本報告の投稿許可をご快諾いただいた山口知的財産本部長・佐田教授及び山口大学知的財産本部, 宇部興産(株)知的財産部の関係諸氏に対し, この紙面を借りて, 深く感謝する次第である。

参考文献

- [1] 慈道佐代子, 利用者向け研修プロジェクト
ー企画と実施例ー, 情報の科学と技術,
Vol.53, No.5, pp.263-268, 2003
- [2] 情報科学技術協会セミナー (エンドユーザ

ー検索 ー企業内教育の取り組み 2003
年 9 月 26 日開催) 資料, 2003

- [3] 岡本和彦, 宇部興産(株)におけるエンドユーザー教育: 研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」, 第 40 回情報科学研究集会予稿集, pp.91-94, 2003
- [4] 岡本和彦, 宇部興産(株)におけるエンドユーザー教育: 研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」, 情報管理 Vol.47, No.1, pp.15-19, 2004
- [5] 特集: 特許検索に必要なスキルと知識, 情報の科学と技術, Vol.54, No.5, 2004
- [6] 岡本和彦, 宇部興産(株)におけるエンドユーザー

- ザー教育：研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」，日本知財学会第二回研究発表会講演要旨集，pp.362-365，2004
- [7] 岡本和彦，全国図書館大会への招待，第6分科会（専門図書館），専門図書館の人材育成，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育：研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」，図書館雑誌，Vol.98，No.9，pp.645，2004
- [8] 岡本和彦，出口昌信，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育Ⅱ：グループ企業内におけるPATOLIS-Ⅳの導入教育，第1回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2004）予稿集，pp.99-102，2004
- [9] 岡本和彦，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育：研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」及びインフォプロのスキルアップ（私見），平成16年度（第90回）全国図書館大会要綱 pp.45-46，2004
- [10] 岡本和彦，出口昌信，山口大学に対する知的財産情報教育支援～産学連携における試み～ 第11回 医学図書館研究会・継続教育コース 予稿集，2004
- [11] 岡本和彦，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育：研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」，2005年情報学シンポジウム講演論文集 pp.23-27，2005
- [12] 岡本和彦，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育：研究開発本部における「情報検索アドバイザー制度」及びインフォプロのスキルアップ（私見），平成16年度（第90回）全国図書館大会香川大会記録、pp.242-251，2005
- [13] 岡本和彦，出口昌信，山口TLOに対する知的財産情報教育支援～産学連携における試みⅡ～，日本知財学会第三回学術研究発表会講演要旨集，pp.268-271，2005
- [14] 出口昌信，岡本和彦，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育：営業部門に対する知的財産情報教育の試み，日本知財学会第三回学術研究発表会講演要旨集 pp.280-283，2005
- [15] 岡本和彦，出口昌信，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育：研究所に対する電子ジャーナルのユーザー教育支援，研究・技術計画学会第20回年次学術大会講演要旨集，pp.887-890，2005.
- [16] 出口昌信，岡本和彦，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育～営業部門に対する知的財産情報教育の試み～，情報知識学会誌，VOL.16，NO.1，p.39-43，2006
- [17] 岡本和彦，出口昌信，山口TLOに対する知的財産情報教育支援～産学連携における試み～，情報知識学会誌，Vol.16，No.1，pp.44-51，2006
- [18] 岡本和彦，出口昌信，山口大学および山口TLOに対する知的財産情報教育支援～山口大学における特許情報検索インストラクター育成～，情報ネットワーク・ローレビュー，Vol.5，pp.161-180，2006
- [19] 岡本和彦，出口昌信，宇部興産㈱におけるエンドユーザー教育～情報検索アドバイザー制度と研究所員に対する電子ジャーナルのユーザー教育支援～，情報知識学会誌，Vol.16，No.3，pp.56-62，2006
- [20] 岡本和彦，出口昌信，宇部興産㈱及びグループ企業内における研究者・技術者向けマーケット・リサーチ教育の試み，研究技術計画，VOL.21，NO.3/4，pp.322-328，2006
- [21] 岡本和彦，出口昌信，山口大学に対する知的財産情報教育支援2006～特許情報検索インストラクターの育成～，日本知財学会第5回学術研究発表会講演要旨集 pp.44-47，2007